須坂市の中世を物語る 史跡・古寺探訪

須高の地から開山慧玄（妙心寺開山、高梨氏）、角張成阿（法然上人の弟子、浄運寺開山、井上氏）、無関普門（南禅寺開山、保科氏）をはじめ、保科氏、井上氏、楡井氏、須田氏などを出自とする名僧、高僧が数多く輩出しています。又、一向一揆と深いかかわりを持つ真宗寺院もあります。閑静な寺院のたたずまいに、むかしを偲び歴史をひもとく、須坂の古寺めぐりを楽しんでください。

④ 普願寺

⑥ 浄運寺

① 不動寺

③ 興國寺

須坂市は長野県の東北部に位置し四囲は長野市、小布施町、高山村、上田市、群馬県嬬恋と隣接している。東に四阿山、西に千曲川が流れ遠く北信五岳（戸隠山、飯縄山、黒姫山、妙高山、斑尾山）や北アルプスを望む風光明眉な町です。

須坂の先人 須田氏のあゆみ（須田氏小史）

◉前史

【源平争乱期のころ】須田氏は高井郡須田郷（須坂市）を本貫の地とした中世的開発領主（国人領主）でした。その中心は旧小山村あたりでしたが、やがて須坂扇状地の中央部にまで須田郷は拡がっていきました。小山に居館を構えて行政・勧農・軍事の拠点としたと考えられますが、その痕跡は定かではありません。

【鎌倉時代後期ころ】大岩郷（旧日滝村）に進出し、後背の天狗岩の尾根に要害の大岩城、麓の平地（現蓮生寺境内）に居館を構えました。

【室町後期～戦国時代ころ】封建領主として発展を遂げ、根本所領の須田郷・大岩郷・高井野郷のほか井上氏領を蚕食しながら支配領域を拡大していきました。

戦国期**須田満信**の勢力は千曲川左岸の布野・古野・矢島奥にまで拡大しています。

満龍寺うら山の天狗岩尾根に大岩城があった

◉両雄対決川中島合戦

永録4年の川中島合戦信玄・謙信一騎打ちの像（八幡原史跡公園）

天文22年（1553）**武田信玄**の北信濃進出で、村上義清の葛尾城が落城します。これをきっかけに村上・高梨・島津・須田氏ら北信濃の国人領主は越後国**長尾景虎**に支援を求め、景虎が出陣します。**川中島合戦**の始まりです。このころ須田一族は**信頼・信正（臥龍山須田氏）**と**満国・満親（大岩須田氏）**に分裂し、川中島合戦では武田方・上杉方に分かれて戦う悲哀をあじわいました。

大岩城を武田氏に攻略された**満国・満親親子（大岩須田氏）**は越後へ逃れ、上杉庇下の将となりました。満親は上杉家の内紛**御館の乱**で景勝方につき、景勝側近となりました。そして**越中松倉城将**となった満親は、本願寺教如らとともに五箇山の一向宗を指揮し、佐々成政ら**織田軍**と戦いました。

越中の戦況は、満親から兼続に伝えられ、景勝に報告されるものであって、**須田満親と直江兼続**との間には、太い絆のパイプが築かれていました。

◉武田氏の信濃支配と上杉氏の信濃支配

5度にわたる激戦をくりかえし、**川中島の戦い**はどちらが勝ったのでしょう。

戦い自体は両軍甲乙つけがたいものでしたが、その後の**武田信玄**の支配は海津城・長沼城を整備し、上杉支配下の飯山地域を常に脅かすまでに広がり、勝頼の時代には、御館の乱を経て飯山地域も支配下におさめ信濃一国が武田領国となりました。

天正10年（1582）武田勝頼、織田信長が相次いで亡くなると、**上杉景勝**の支配下になります。

満親は真田昌幸ら武田旧臣を服属させ、天正13年（1585）10月、**海津城将**（1万2千石）川中島4郡（水内・高井・更級・埴科）の治世をすすめました。

国宝「上杉家文書」須田満親書状（直江兼続宛）米沢市上杉博物館蔵

◉関ヶ原合戦と会津・米沢に移った信濃武士

慶長3年（1598）**豊臣秀吉**は景勝に会津（120万石）移封を命じます。満親は**景勝会津移封**に反対し移住することなく没しましたが、その子**長義**が家督を相続し、主族家臣を伴って会津に移住しました。ここに信濃における須田氏の主流が絶えました。

秀吉の死後勃発した関ヶ原の戦いでは、景勝は西軍**石田三成**方につきましたが大坂冬の陣では家名存続をかけて徳川家に臣従しました。長義は**梁川城将**（2万石）となり、主家の動きに翻弄されながらも軍功をあげ、大坂冬の陣で徳川秀忠から感状と短刀を与えられました。

【江戸時代】**上杉景勝**は会津120万石から米沢30万石（後に15万石）に転封され江戸時代を生き延びることになりました。須田氏も主家に従い**米沢**に移住し上杉氏の侍組・家老として、ながらく重きをなしました。上杉治憲（鷹山）の藩政再建をめぐり家臣団の建白（七家騒動）の首謀者の一人として処断され、家名断絶となりました。その後復興を許され、250石で幕末を迎えました。

---

① 米子瀧山威徳院 **不動寺**（真言宗豊山派）

奈良時代僧行基によって開山されたと伝えられる古刹。本尊は鎌倉初期運慶系の仏師の製作になる不動明王立像。関東管領職についた上杉謙信が、室町幕府13代将軍足利義輝から拝領した不動明王といわれ、永禄4年（1561）の川中島合戦では本陣に祀り、謙信自ら戦勝祈願の護摩を厳修し、重臣柿崎景家、甘糟景持、直江実綱によって不動寺奥之院（不動寺開山の地）に奉祀されたと伝えられている。謙信の位牌を安置。
近年不動尊の台座内から、毘沙門天が刻まれた見事なうるみ塗りの「重配」が発見され話題となっている。
米子不動尊は、千葉成田、越後菅谷とならび、日本三大不動として全国から参詣する人々が絶えない。
奥之院がある米子大瀑布（権現滝・不動滝）は日本の滝百選の名瀑。壮大な大自然が時空を越えて訪れる人々を癒してくれる。

② 帰命山真政院 **萬龍寺**（天台宗）

開祖は木食行・千体仏彫像の苦行を重ねた修験念仏で名高い但唱上人。元和3年（1617）亀倉村寺河原に萬龍寺を開山。寛永4年（1627）現在地に堂宇移転。将軍家お産の祈祷に効験あって「寺領14石」の朱印状を授かっている。

③ 臥龍山 **興國寺**（曹洞宗）

臥竜山一帯（臥竜公園）を寺領とする中世には須田氏、近世は須坂藩主ゆかりの古刹です。甲越合戦の折、武田方にくだり福島城主となった須田信頼・信正親子が臥竜山を拠点とした。須田信頼が寺領を安堵し興國寺中興の開基となっている。
戦国武田信玄支配時代、天正元年（1573）信玄龍印丸の朱印状が与えられている。特色ある菩薩形の釈迦如来がご本尊である。

④ 大岩山 **普願寺**（浄土真宗本願寺派）

京都西本願寺に属する浄土真宗の古刹。
武蔵国から高井郡大岩に移転。その後小山に移る。寺宝に武田勝頼書状「就一ヶ条之儀」を所蔵。石山合戦では当地の一向宗寺院をたばね、兵粮米を送っている。須田氏の家紋あげ羽蝶の衣文の聖徳太子立像は鎌倉期の作。

⑤ 柳嶋山 **勝善寺**（浄土真宗大谷派）

井上氏の建立で磯部六ヶ寺のひとつ。中俣勝善寺は八町に移り、その後現在地に移った。石山合戦では、金子と兵粮米を本願寺に送っている。

⑥ 井上山 **浄運寺**（浄土宗）

井上氏の祈願所。建保2年（1214）創立。開基は角張成阿、開山は不乱坊。『法然上人絵伝』には井上氏出身の角張成阿が力者の頭領としてみえる。長野県内で最も古い浄土宗の名刹。「川中島戦にて寺堂過去帳焼失」といわれ、参道の「第一義」の碑や、近くに延喜式内社「小坂神社」のあることなど、須坂中世史のかぎをにぎる寺でもある。歴代領主の帰依も厚く、井上氏祈願所、松平忠輝が寺領を寄進し、その香華院となった。家康・秀忠の位牌を安置。

⑦ 井上山 **勝楽寺**（浄土真宗本願寺派）

建保2年（1214）親鸞上人の弟子唯仏（井上小二郎）によって開山。牟礼から水内郡村山（長野市村山）に移り、福島に移ったのは慶長11年（1606）。
勝楽寺が千曲川左岸にあった戦国時代、川中島合戦のあと永禄11年（1568）武田信玄は長沼城を再興し、上杉陣営への前線基地とした。信玄帰陣にあたって、勝楽寺に禁制を発し、警備の軍勢の狼藉を禁止している。
武田勝頼死後、織田信長の支配に反対し、石山本願寺に篭城中の一向宗門徒を支援して、勝善寺など同門の寺とともに兵粮米を送っている。

⑧ 護法山 **満龍寺**（曹洞宗）

天正10年（1582）6月創建。上杉家の天庵正清が開山。須田満国が開基。
天正13年（1585）満国が自刃し、須田満親が満国の菩堤を弔うために寺領を寄進し再建。本堂裏に満国の供養塔がある。

⑨ 馬陰山宝池院 **蓮生寺**（真言宗豊山派）

蓮生寺の背後の山天狗岳に、須田満親を生み出した大岩郷須田氏の山城大岩城があり、麓の平地に居館があった。須田満国・満親親子が武田に攻められて越後へ逃れた後、この城は廃絶し、その館跡が寺院に転用されたと考えられている。今日の蓮生寺境内あたりと推察されている。江戸時代には須坂藩の祈願寺として、また秋葉三尺坊の寺として信仰を集めた。